編集・発行
公益財団法人モラロジー研究所　学校法人 廣池学園
〒277-8654　千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3111（代表）　FAX.04-7173-3113

廣池千九郎生誕150年記念ホームページ
http://www.hiroike-chikuro.jp/150th/
QRコードからもホームページをご覧いただけます▶

創立者・廣池千九郎生誕150年

記念事業のご案内

公益財団法人モラロジー研究所
学校法人 廣池学園

麗澤大学　麗澤中学・高等学校　麗澤瑞浪中学・高等学校　麗澤幼稚園

創立者・廣池千九郎
（1866～1938）

公益財団法人モラロジー研究所と学校法人廣池学園（麗澤大学、麗澤中学・高等学校、麗澤瑞浪中学・高等学校、麗澤幼稚園）は、創立者・廣池千九郎の生誕150年を迎え、平成28年3月の「生誕記念の集い」からの1年間を「廣池千九郎生誕150年記念年」と定め、両法人協働の記念事業をはじめ、さまざまな事業を実施します。これを通じて、廣池の業績と思想を再確認するとともに、現代社会が抱える諸問題の「道徳的解決」に取り組んでまいります。

廣池千九郎 生誕一五〇年を迎えて

公益財団法人モラロジー研究所
学校法人廣池学園
理事長
廣池 幹堂

平成28年（2016）は、公益財団法人モラロジー研究所と学校法人廣池学園の創立者・廣池千九郎（法学博士、1866－1938）の生誕150年にあたります。

幕末の大分・中津に生まれた廣池は、14歳で小学校の補助教員になりました。やがて「教師たる者、国史を知らざるべからず」という恩師の言葉を受け、20代で歴史家を志します。30代では法制史研究の道に進み、独学で身を削るような努力をした結果、46歳で法学博士の学位を授与されました。しかし、学者として最高の栄誉を得たまさにそのとき、病に倒れ、医師から死の宣告を受けたのです。

「成功と幸福とは違う」と悟った廣池は、「人間がよりよく生きるための指針」の探究に後半生を捧げます。それは学究生活の中で見いだした「皇室の万世一系の原因の探究」「世界の諸聖人に共通一貫する道徳思想」等、歴史を貫く不動の真理を、後世のために書き遺そうとする試みでもありました。昭和3年（1928）に初版が刊行された『道徳科学の論文』は、その成果を世に問うものです。

廣池がモラロジー（道徳科学）の研究に取り組んだ大正の末から昭和にかけては、日本が戦争に向かっていく時代でした。そうした中、廣池は「道徳こそが人類の安心・平和・幸福の基礎である」との信念から、政府の要人に対して戦争防止のための提言を行います。モラロジーに基づく社会教育の第一声は、昭和6年（1931）9月、満州事変と時を同じくして行われた、日本経済の中心地・大阪の経営者に向けた講演会でした。このとき、新渡戸稲造博士は「光は東方より来たる」という言葉を聴衆に紹介し、「東の空に輝く星」として、閉塞する世界におけるモラロジーへの期待を述べておられます。

最晩年の廣池は、昭和10年（1935）、千葉県に「道徳科学専攻塾」を開設し、社会教育と学校教育を車の両輪として行う「生涯教育」の場を開きました。現在のモラロジー研究所と廣池学園は、その理念と諸事業を受け継ぐものです。

私どもは創立以来、戦前・戦中・戦後を通じ、一貫して道徳の学問的研究と、これに基づく人づくりに取り組んでまいりました。国づくりの根本は、国民の「心」を育てる教育であり、それは道徳教育にほかなりません。生涯教育から累代教育へ――私どもはこの節目を機に、「知徳一体」の人間教育と「道徳経済一体」の経営、そして「三方よし」の教えを説いた創立者の遺志を再確認し、志を同じくする多くの方々と手を携え、「人づくりによる国づくり」にますます努力をしてまいる所存です。

今後とも、当法人の事業にさらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月吉日

廣池千九郎生誕150年記念事業の概要

Ⅰ モラロジー研究所・廣池学園の協働事業

1．学校における道徳教育貢献事業（道徳の教科化への貢献）

（1）教員向けの教材を開発

①道徳授業の手引書『道徳授業を深める』シリーズの刊行

②優れた教育者の人となりや実践事例、エピソードを中心に紹介する一般書の刊行

（2）道徳を教授する教員に研修の場を提供

①道徳授業の指導力向上のための講座（主に教授法について）の実施

②道徳教育エクステンション・プログラム（出張・派遣型の講座・講義）の実施

（3）道徳教育の研究者育成ならびに教育者養成（大学院）の計画を推進

（4）「麗澤教育推進センター」を設置し、麗澤教育の理念を再確認するとともに、麗澤各校の道徳教育の教授法および道徳教材全般（指導案など）の整備を行い、麗澤メソッドを確立し、道徳教育に対する啓発活動を展開

2．記念講演会の開催。廣池千九郎の遺志の再確認および新たな決意の表明を行う。記念年間の「廣池千九郎生誕記念の集い」および「伝統の日・感謝の集い」において計3回実施

3．経済・経営シンポジウムの開催。道徳経済一体思想の今日的意義を中心に、廣池千九郎の思想と業績を広く社会に顕彰するとともに、現代社会が抱える諸問題の道徳的解決について提言。

■ 記念年間に計3回実施

日　程	会　　場
平成28年 6月19日(日)	福岡会場（ホテル日航福岡）
平成28年11月13日(日)	東京会場（ハイアットリージェンシー東京）
平成29年 3月 5日(日)	大阪会場（大阪府立国際会議場〈グランキューブ大阪〉）

後援：一般社団法人日本道経会

4．生誕150年記念事業広報の展開

（1）記念ホームページの開設　　URL：http://www.hiroike-chikuro.jp/150th/

（2）記念事業ロゴの活用

記念事業ロゴ。デザインは、葉陰に美しい実をつける様から廣池千九郎が愛した「万両」を配し、廣池学園のイメージカラーである緑と、モラロジー研究所の青を調和させたもの

（3）記念冊子（『人 廣池千九郎』の改訂版、パンフレット等）および記念グッズの作成

（4）廣池千九郎の歩みについてのパネルの作成と展示

5．平成29年6月の「伝統の日・感謝の集い」に、記念年間の事業の総括と両法人それぞれの100周年に向けた「創立100周年への誓い」を発表

6．柏キャンパスの整備――新桜並木の造成

Ⅱ モラロジー研究所の事業

1．廣池千九郎記念館で廣池千九郎の人と業績を紹介する展示を実施

2．「廣池千九郎 Website」を「廣池千九郎記念館 Website」としてリニューアルし、人物のみならず記念館としての取り組みを紹介

3．ジュニア版伝記『生涯教育の先駆者 廣池千九郎物語』、『伝記 廣池千九郎』（改訂）、『日本通史（仮題）』を発行

4．道徳科学研究センターにて、「廣池千九郎の業績と思想」をテーマに同時代の思想と比較する研究発表会を実施し、『モラロジー研究』に収録

5．「皇室関係資料文庫」の構築を推進

Ⅲ 廣池学園の事業

1．麗澤大学

（1）海外の学会誌に、廣池千九郎の教育思想、麗澤大学における道徳教育の教授法およびインパクト測定法を紹介

（2）海外提携校とシンポジウムを開催し、廣池千九郎の教育思想等を紹介

（3）海外提携校であるベトナム国家大学における道徳研究センターの活動を支援

①27年に開催した共同シンポジウム「日本とベトナムの文化、融合と発展」の書籍化

②廣池千九郎を紹介する書籍や道徳科学を体系的に紹介する書籍等のベトナム語訳出版

（4）廣池千九郎生誕150年記念スカラシップ入試を実施

（5）全学年で「道徳科学」を順次に学べる新カリキュラムを整備

（6）経済学部で「道経一体コース」を開始

2．麗澤中学・高等学校

（1）「創立者に学ぶ」論文募集事業を実施

3．麗澤瑞浪中学・高等学校

（1）生徒対象の創立者生誕150年記念講演会を6月に実施

（2）廣池千九郎の生涯についての展示ブースを校舎内に設置・展示

（3）記念講演会を含めた「伝統の日・感謝の集い」を実施し、創立者の業績を広く紹介

4．麗澤幼稚園

（1）廣池千九郎に関する園児向け紙芝居（教材）を製作

※そのほかにも、他団体との協働事業や麗澤会の活動なども含め、さまざまな記念事業を展開してまいります

写真で見る廣池千九郎の歩み

慶応2年(1866)

3月29日　現在の大分県中津市にて廣池半六・りえの長男として出生。

廣池千九郎の生家

明治13年(1880) 14歳

母校・永添小学校の助教(補助教員)となり、教育者としての第一歩を踏み出す。

永添小学校跡（法華寺）

明治16年(1883) 17歳

正教員を目指して永添小学校を辞め、漢学者・小川含章の私塾「麗澤館」で学ぶ。

小川含章（1812～1894）

明治21年(1888) 22歳

明治18年、念願の正教員に。同21年、道徳教育の教材集『新編小学修身用書』を発行。「身近な先人」に学ぶ大切さを説いた。

『新編小学修身用書』(全3巻)

明治24年(1891) 25歳

足かけ5年の歳月をかけて『中津歴史』を執筆。同書で日本で最初にアーカイブズ(公文書館)の設置を提唱した。

地方史の嚆矢となる『中津歴史』

明治25年(1892) 26歳

中津での教師生活に終止符を打ち、歴史家を志して京都へ。

廣池と妻・春子と長男・千英

明治25年(1892) 26歳

京都で『史学普及雑誌』を発行。一般人への歴史教育と専門家への研究資料の提供を目的とした。

明治25～28年まで全27号を発行

明治28年(1895) 29歳

国学者・井上頼圀のはからいで、『古事類苑』の編纂に従事することになり、上京。

全1000巻のうち4分の1以上を編纂

明治35年(1902) 36歳

早稲田大学に招かれて東洋法制史と漢文法の講義を持つことになる。

明治38年発行の『東洋法制史序論』

明治40年(1907) 41歳

伊勢の神宮皇学館（現在の皇学館大学）教授となる。翌明治41年に『伊勢神宮』を著す。

神宮皇学館時代。前列右から2人目

大正元年(1912) 46歳

秋頃より大病を患う。そうした中、東洋法制史の研究で法学博士の学位を授与される。

学位記

大正15年(1926) 60歳

人類の幸福、世界平和の実現のため、道徳の科学的研究に取り組み、大正15年、『道徳科学の論文』の謄写版印刷が完成。

謄写版『道徳科学の論文』の一部

昭和3年(1928) 62歳

『道徳科学の論文』初版を発行。国際連盟事務局次長を務めた新渡戸稲造（法学博士、農学博士）が序文を寄せた。このころより「三方よし」の教えを説く。

『道徳科学の論文』初版

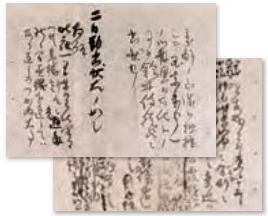
昭和6年(1931) 65歳

大阪毎日新聞社での講演会を皮切りに、モラロジーに基づく社会教育活動をスタートする。この講演会で新渡戸稲造が廣池を「東の空に輝く星」と紹介。

関西の実業家等が600人以上聴講

昭和7年(1932) 66歳

日本が戦争へと向かう中、鈴木貫太郎侍従長など国家の要人たちに平和への進言を行う。



鈴木貫太郎侍従長にあてた書簡の原稿

昭和10年(1935) 69歳

千葉県柏市に道徳科学専攻塾を開設。本科では中等教育修了者を対象に学校教育を、別科では社会人を対象に社会教育を行う。

道徳科学専攻塾の正門

昭和12年(1937) 71歳

群馬県利根郡みなかみ町の谷川温泉に、療養施設と社会教育施設を併設した谷川講堂を開設。翌年、大穴温泉で療養する中、**72歳**で死去。

開設当時の谷川講堂

現在〈平成28年(2016)〉

学校教育は麗澤各校（幼稚園・中・高・大学）を擁する学校法人廣池学園へ、社会教育は公益財団法人モラロジー研究所へと受け継がれている。

柏キャンパス（千葉県柏市）